

老健 しずおか

静岡県老人保健施設協会機関誌
ROUKEN SHIZUOKA 第24号



ご挨拶

静岡県老人保健施設協会
会長 小出 幸夫

平素は静岡県老人保健施設協会の運営に関して多大なご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、去る令和元年11月27日に開催されました臨時総会で、次期会長を仰せつかりました。身の引き締まる思いです。会員の皆様には益々のご支援をお願い致します。静岡県老人保健施設協会の最も重要なミッションは目まぐるしく変化する制度を、スピード感を持って収集し、会員に伝達・解説することにあると思っています。これまで、平成24年度、平成27年度、平成29年度と矢継ぎ早に改定が発表され、直近の平成30年度改定では、周知のように10の指標に基づく老健施設の5類型が設定されました。猿原前会長は研修等を通じて、これらの情報をいち早く会員に伝達されました。又、各職域部会による研修により、スキルアップと親交を深める努力をされました。これらのご努力を継続し、更に発展させたいと考えています。

一方、我が国が抱える問題として「2025年問題」は、団塊の世代が二斉に後期高齢者になる問題の年として良く知られています。しかし、最近では「2040年問題」が更に深刻であることが分かってきました。2030年に後期高齢者人口はピークを迎えますが、2040年には微減するのみで、逆に65歳未満の人口減が顕著で現役世代1.5人で高齢者1人を支えるという

人口構造になります。そこで、国は厚生労働大臣を本部長とする「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」を設置しました。当然ながら、医療・福祉分野で働く人数は、需要は増えるものの減少の二途を辿ります。人材確保は喫緊の課題であります。現場からは介護職のイメージアップの方策をとって欲しいとの意見が寄せられます。我々はこれに真摯に向き合うことが必要です。働き方改革では、「高齢者の就労促進」が提言されています。再雇用(継続雇用)の処遇改善も必要かもしれません。又、次々と打ち出された介護職員の処遇改善の効果はまだ予断を許しませんが、賃金のみならず「ワークライフバランス」の質の保障も肝要です。更に、「日本人の介護は日本人の手で」という考え方は原則ですが、前記のような予測値からは外国人の手を借りざるを得ないと思います。現在、外国人材受け入れのルートは4種類ありますが、仕組みが煩雑で老健二事業所では取り組む難しいところもあろうかと思えます。組織的に取り組めば案外とスムーズに行くのではないかと考えます。

地域包括ケアシステムの中核施設としての老健施設は世界に類をみません。誇りを持って医療・介護分野でリーダーシップを発揮していただくではありませんか。

富士山世界遺産センター



◎ 部会報告

看護・介護部会
リハビリ部会
栄養部会
支援相談員・ケアマネ部会
防災部会

◎ 静岡県施設一覧

緊急特集 新型コロナウイルス 施設における感染拡大防止留意点

TOPIC 1

職員研修発表会

TOPIC 2

第30回全国老人保健施設大会
別府大分

TOPIC 3

全体研修会

第1回「2019年10月介護報酬改定に伴う介護老人保健施設の運営」

第2回「脱ミスコミュニケーション」「認知症ケアにおけるリスクマネジメント」

第3回「介護老人保健施設の今後の運営について」一泊実務者連絡会